

授業科目(ナンバリング)	公的扶助論 (DA306)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
生活困窮者を救済し、生活を支援するための制度・施策について、生活保護制度を中心に理解する。単に制度を理解するだけでなく、生活困窮や貧困はなぜ発生するのか、日本の貧困の現状はどのようなものか、貧困問題に対して公的扶助制度はどのように機能しているか、現在の日本の公的扶助制度の問題点や課題は何か、といったことについて考えることを通じて、貧困問題を社会全体の問題として考える姿勢を身につける。 なお、本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士受験科目の「低所得者に対する支援と生活保護制度」に相当する科目である。							①②③⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	生活保護制度をはじめとする、生活困窮者救済のための諸制度について説明できる。					・小テスト 10% ・定期試験 20%	30%
情報収集、分析力	生活困窮や貧困はなぜ発生するのか、社会的背景を踏まえつつ説明することができる。					・小テスト 10% ・定期試験 40%	50%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本および世界各国の貧困問題に関心を持ち、社会福祉の実践者(専門職)として、貧困問題を社会全体の問題として考える姿勢を身につける。					・小テスト 5% ・小レポート 5% ・定期試験 10%	20%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験のほか、小テストを 2 回、小レポートを 2 回実施し、これらを総合的に勘案して評価を行う(フィードバックとして、小テストについては、その場で自己採点を行い、その後復習を兼ねた解説を行う。小レポートについては、意見を集約したうえで、次回以降の授業で紹介し授業内容理解の一助とする)。評価比率は上記のとおりである。 評価基準は長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。							
授業の概要							
授業は、指定テキストと配布レジュメを併用して行う。また、DVD鑑賞なども行い、それをもとに公的扶助の諸問題について受講者とともに議論するアクティブラーニングの機会も設けたい。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：増田・脇野編『テキストブック公的扶助論』(仮) 法律文化社、2019 参考書：『新・社会福祉士養成講座 第 16 巻 低所得者に対する支援と生活保護制度—公的扶助論(第 5 版)』中央法規(2016) 指定図書：教科書と同じ。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の実践者として、公的扶助や貧困の問題について、社会全体の問題として考える姿勢を身につけてほしい。 ・そのために、日ごろから新聞等に目を通し、日本や世界各国の貧困問題に広く目を向けてほしい。特に現在、日本の生活保護は基準の見直しや法改正が行われるなど、制度をめぐる動きが急である。そのような動向について常に留意する姿勢を持ってほしい。 ・予習、復習として、教科書の指定箇所を授業前後に必ず読んでおくこと。 ・生活保護をはじめとする諸制度について、単に「暗記」しようとするのではなく、制度そのものを「理解」するよう努力してほしい。そのために、講義には休まず出席し、特に復習を確実に行うこと。万一理解できなかった事項については、決してそのままにせず、いつでも遠慮なく質問してほしい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 公的扶助とは	講義の進め方、講義の予定などについて説明する。 公的扶助とはどのようなものかについて、入門的な説明を行ったうえで、関連するDVDを視聴する。その内容に関する授業内小レポートを提出してもらう。	予習：教科書序章を詠む。 貧困問題とは何か、自分なりに考えてみる。
2	貧困とは何か	「貧困」の概念と、その発生要因について理解する。	予習・復習：教科書第1章第1節2節を読んでおく。
3	わが国における貧困の現状	わが国における貧困の現状がどのようなものかを、具体的な事例を通じて理解する。	予習・復習：教科書第1章第3節4節を読んでおく。
4	公的扶助の歴史①	公的扶助制度の登場とその展開について、イギリスにおける救貧法の歴史的展開過程の考察を通じて理解し、公的扶助の概念の理解に役立てる。	予習・復習：教科書第12章第1節を読んでおく。
5	公的扶助の歴史②	日本の公的扶助の歴史的展開について、明治時代以降を中心に理解し、現在の制度の理解に役立てる。	予習・復習：教科書第12章第2節を読んでおく。
6	生活保護制度①	保護の理念、目的、基本原理、基本原則について理解する。	予習・復習：教科書第4章を読んでおく。
7	生活保護制度②	保護における給付の種類、範囲、方法について理解する。	予習・復習：教科書第5章第1節2節を読んでおく。
8	生活保護制度③	相談、申請から受給に至る保護のプロセスについて理解する。 *第6回～第8回の内容に関する小テストを実施する。	予習：教科書第5章第3節4節を読んでおく。小テストに向けた復習。 復習：小テストの復習。
9	生活保護制度④	最低限度の生活の具体的な基準となる「保護基準」について、その決定の仕方の変遷と、現在の決定方式を理解する。最低生活費の算定方法について理解し、実際に自分の最低生活費を計算してみる。	予習・復習：教科書第5章を再度読んでおく。
10	生活保護制度⑤	被保護者の権利義務について理解する。 不服申し立ておよび行政訴訟について理解する。	予習・復習：教科書第4章第4節5節を読んでおく。
11	生活保護の実施体制	生活保護の実施体制と福祉事務所の役割について理解する。 *第9回～第11回の内容に関する小テストを実施。	予習・復習：教科書第4章第4節を読んでおく。小テストに向けた復習。 復習：小テストの復習。
12	生活保護における相談援助活動	生活保護における相談援助活動のプロセスと方法、関連機関との協働について、具体的な事例を通じて理解する。	予習・復習：教科書第7章を読んでおく。
13	生活保護をめぐる動向と制度の課題	生活保護をめぐる近時の動向と、そこからみえてくる課題について理解し、制度の今後のあり方について考える。 *生活保護の動向に関する小レポートを実施する。	予習・復習：教科書第6章を読んでおく。
14	生活保護制度以外の低所得者施策	生活保護制度以外の低所得者施策について、生活福祉資金貸付制度を中心に理解する。	予習・復習：教科書第10章を読んでおく。
15	まとめ—低所得者・貧困施策の今後	これまでの講義内容を踏まえながら、社会的セーフティネットとしての低所得者・貧困施策の今後のあり方について考える。	予習：これまで学習した内容のふり返し。 復習：定期試験に向けた復習。
16	定期試験		